

## 令和2年度鳥取看護専門学校における学校運営評価（自己評価）の結果のまとめ

令和3年9月現在

5点満点評価

評価内容	平均評点	教員自己評価
①学校経営 (5項目)	3.6	<p>単年度組織ミッションを意識し、教職員ひとりひとりが担当業務を遂行した。学校自己評価については、平成26年度から取り組み、その結果をホームページ上で公表している。</p> <p>令和元年から高等教育の修学支援新制度の対象校に選ばれ令和2年度も対象校として継続している。</p> <p>令和2年より学校関係者評価委員会を実施している。</p>
②教育課程・ 教育活動 (14項目)	3.7	<p>第5次カリキュラム改正をガイドラインに沿って作成した。新カリキュラムの申請を行う。また、新カリキュラムに向けて、シラバスの作成、外部講師との打ち合わせ、新しい実習施設の交渉を行っていく。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で一部授業が遅延した。また、感染予防のため遠隔授業を実施した。実習が中止になった場合は単位修得のため学内実習を実施した。個々の教員は学生の授業アンケート、実習アンケートを実施して次年度に活用している。</p>
③入学・ 卒業対策 (4項目)	3.7	<p>令和2年度新入生は定員に5名足りなかった。定員割れの対策が必要である。</p> <p>県内就職率は84.3%、国家試験合格率100%であった。</p> <p>WEBオープンキャンパス、推薦校に出向き推薦学生の依頼と入学案内を実施した。国家試験対策は特別講義を2年生と3年生に実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で県外講師の特別講義は見合わせ、教員による特別講師やウェブでの国家試験対策を3年生に行い、全員合格を目指す。</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、実習が中止になった施設があった。学内実習に切り替え単位を修得し卒業できるように計画し実施できた。</p>
④学生生活 への支援 (4項目)	3.5	<p>カウンセリングの特別講義、スクールカウンセラーによるカウンセリングを月に2回程度実施している。学業継続のために鳥取県修学資金の貸付者率は令和元年度69.4%、令和2年度は74.6%と多くの学生が活用している。日本学生支援機構の新型コロナウイルス感染症に伴う緊急支援の案内があれば速やかに学生に周知している。就職・進学についてはハローワークと連携し個別での模擬面接やエントリーシートの書き方について指導を得た。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染予防のためのワクチン接種の支援や、授業方法や食事場所の設定、学生の健康管理をきめ細かく継続しており、感染者は0であった。</p> <p>サークル活動も病院職員と協働して、リモートで活動できるよう、機器や場所を提供してサポートできた。</p>
⑤管理運営・ 財政 (4項目)	3.7	<p>災害など非常時については、食糧備蓄更新、救急箱等災害時持出し物品の確認の継続、突っ張り棒の点検は職場巡視で行い、地震に備えヘルメットを入学時に購入している。マチコミアプリを導入し連絡体制を整え、コロナウイルス対策の連絡に活用した。全学生を対象に学校運営について学生アンケートをとり、学生の意見を反映するようにしている。</p> <p>コロナ禍で規模を小さくして避難訓練を実施しているが、学校全体の防災計画を整備していく。</p>
⑥施設設備 (5項目)	2.6	<p>教育教材は地域医療介護総合確保基金事業補助金を活用し順次整備している。2022年カリキュラム改正で求められているICT活用能力の育成のため、予算要求では電子黒板を2台要求した。</p> <p>昨年までに学内のシミュレーション室や玄関の改修を終え、今後は校舎の老朽化による、屋上や外壁の雨漏りの改修工事を計画していく予定である。</p>
⑦教職員の 育成 (5項目)	3.0	<p>学会や教育に関する研修に計画的に参加し復命の供覧をし、職員に学びを周知している。今後報告会を計画していく。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で県外への往来は難しく、オンライン研修を活用し教員の力量形成をしている。</p> <p>看護技術演習など複数教員が協力する場合には教務会で演習について指導方針を協議し演習に臨んでいる。</p>

⑧広報・ 地域活動 (4項目)	3. 0	高等学校訪問、学校ホームページの掲載、看護協会広報誌などで学校のPRを実施した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響でオープンキャンパスの開催は中止したが、リモートを活用したオープンキャンパス、学生に参加をしてもらった動画をホームページで視聴できるように、計画できている。 鳥取県の実習指導者養成講習会や、県の研修会に講師として教員を派遣した。
平均	3. 3	施設整備を計画的に進めていく。 新カリキュラムを円滑に進めていく。 新型コロナウイルス感染症に対応した継続。 学生確保のための広報の継続。 教員の研鑽、学びの共有を行う。